

社団法人私立大学情報教育協会
平成 20 年度第 3 回サイバー・キャンパス・コンソーシアム
教育専門系グループ運営委員会議事要旨

I 日 時：平成 20 年 10 月 6 日（月）10:00～12:00

II 場 所：私立大学情報教育協会会議室

III 出席者：難波、三尾（進行）、竹熊（TV 会議参加：議事録作成）各委員、
井端事務局長、森下、恩田両事務局員

IV 議 事：

1 教育学における学士力について

会議では、アンケート調査で頂いたご意見をひとつひとつ確認し、その趣旨を取り入れながら教育学における学士力の中味についての再検討を行った。

最終的に、以下のような意見にまとまった。

<教育学における学士力（最終案）>

1. 学びの意義と教育の必要性を論理的、分析的に理解できる。
2. 意欲と能力に応じた学びに配慮した教育をデザイン(設計、実施、評価、改善)できる。
3. 教育が直面する課題や問題に自らが積極的に関心を持つことができる。
4. 教育学を学んだ者としての責任と義務について、その重要性を自覚できる

なお、解説文を含めると以下の通りである。

1. 学びの意義と教育の必要性を論理的、分析的に理解できる。
解説：学びの意義を理解し、地域社会にとどまらずに国内外へと目を向け、
論理的に考え、行動する判断力を培うこと。
2. 意欲と能力に応じた学びに配慮した教育をデザイン(設計、実施、評価、改善)できる。
解説：環境や発達過程に応じた自他の個性や特徴を尊重した教育を行う意義
を理解している。
3. 教育が直面する課題や問題に自らが積極的に関心を持つことができる。
解説：教育に関する諸課題等の解決に対して自己の満足や利益で終わらせることなく、
自らが積極的に広く社会に関心をもつこと。
4. 教育学を学んだ者としての責任と義務について、その重要性を自覚できる。
解説：教育（学）を学んだ者として、言動一致の生活や社会活動を行う倫理観が養われ
るとともに他者への上昇的対応を行うことができること。

2 今後の活動について

各委員が最終案を来週中に再考し、問題なければ上記4点を推敲し、9月10日までに補足説明を追加する形でまとめ直して頂きたいとの提案があった。その後、関係の先生方に配信し、10月中に委員会案として仕上げることとなった。

今年度の委員会活動はこれで終了であるが、その後の流れとして、以下の点が確認された。まず、来年度に向けての課題としては、文科省が提示した共通の学士力（知識、技能、態度）と今回考案した教育学固有の学士力とをつきあわせ、もう少し詳細に教育学の学士力について検討（因数分解）を加えると共に、これらの目標を達成するためのコアカリキュラムといえるような授業デザインを考えること、学士力達成度をどのようにして測定するのかを検討すること等があげられる。

その上で、そうしたカリキュラムにおけるITの可能性と限界について検討し、3，4年後を目途に報告書を作成する。